様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：３７１２３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５９３２１４

研究課題名（和文）大衆文化作品を利用した看護コミュニケーション技能教育の方法開発

研究課題名（英文）Development of communication skills training method for nurses using works of popular culture

研究代表者
因　京子（CHINAMI, Kyoko）

日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授

研究者番号：６０２１７２３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,600,000円、（間接経費）　780,000円

研究成果の概要（和文）：ストーリーマンガや小説などを素材として、看護師に求められるコミュニケーション技能の多様性への認識を進め、諸技能を向上させるために分析的に観察し発信するタスクを開発し、教材2種4点にまとめた。一方は、看護師と患者の間の発話に主眼を置くもので、他方は、問題状況についての理解を専門や文化の異なる関係者間で共有するための説明や対応提案のための発信など、専門者間コミュニケーション技能に主眼を置く教材である。試用の結果、入門的段階だけでなく、実習経験を持つ学生や現職者対象の研修にも利用できることがわかった。

研究成果の概要（英文）：Our study utilized works of popular culture such as story-manga (or, visual novels) and essays to develop teaching materials that offer nursing students opportunities to develop communication skills required of them as a nurse by observing and analyzing various instances of interaction depicted in the works. Our efforts resulted in two kinds of teaching materials, each consisting of two volumes, and several others, as well as a number of accademic articles, lectures, and presentations. One of the two teaching materials we developed focuses on conversations and interactions between the patient and the nurse, and the other deals with skills for communication among various health/medical/welfare professionals, possibly with diversified cultural backgrounds.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護コミュニケーション　ストーリーマンガ　発話分析　ベッドサイドコミュニケーション　専門者間コミュニケーション　異業種間コミュニケーション

１．研究開始当初の背景

核家族化、少子化、およびそれに伴って起こった地域社会の崩壊などの影響により、看護学部学生の中に、幼年期・少年期に異なる年齢や立場にある多様な人間や人間関係を観察し内省する機会を得られなかった人々が多数を占めるようになってきている。そのため、従来のように実習などを通した教育を行うだけでは、対人関係技能、とりわけ、コミュニケーション技能について十分な意識化を促すことが難しくなっている。

一方、高学歴化、グローバル化、医療の高度化を背景に、文化背景や信念を異にする患者への対応、異業種間で行われるものを含む専門性の高い議論や報告など、看護師に必要とされるコミュニケーションの質量は多様化・高度化の一途を辿っている。

そこで、今後もますます多様化していく必要への対応策を考案していくための基礎能力を養うために、具体的なコミュニケーションのサンプル（言語、行動、場面、文化）を他者と共に観察し、自分の解釈を発信し、他者の見解を聞いて自己の見解を再点検するといった一連の作業を通してコミュニケーションの一般課題や基本原則を把握する能力を養う機会を提供する教育方法を開発する必要があると思われた。

本研究の代表者および分担者 2 名は、言語学を専攻し、日本人に対する外国語教育、および、日本語非母語話者に対する日本語教育を担当した経験を持つ。それらの実践の中で、明示的な規則として示すことが困難な、必ずしも認知的意味として伝達されない発話の効果、たとえば、ポライトネスやインポライトネスなどの発話効果が生成され理解される機序を、学習者に理解させる方策を開発することが必要となり、これを行ってきた。この経験を活用し看護教育の専門家と連携すれば、異なる背景・経験を持つ人々の発話や行動の裏にある前提を理解する技能の獲得を援助する、今日の看護学生のための教材を開発することが可能であると思われた。

２．研究の目的

看護学専攻の学生のコミュニケーション技能を向上させるための具体的方法を開発するために、大衆文化作品を利用した教材を作成し、併せて、それを用いる教育方法（コースデザイン、学習活動等）を開発し、それを用いた授業実践を行って効果を検証する。

３．研究の方法

ストーリーマンガ、映画、小説等の作品の中から医療・看護・介護の在り方に関する問題提起を含むと思われる作品を収集し、言語教育学的観点と看護基礎教育的観点の双方から教材化する作品を選定し、言語表現・言語行動・文化的信念・社会的要請など、種々の面から多様な内省と議論とを誘発するためのタスクを考案し、教材集としてまとめた。

教材集の編纂と並行して、教材を使った試験授業を実施し、活動案の使用可能性と教育効果を評価し、教材の改良を行った。初年次学生など、実習を経験する前の学生を主な対象として想定したが、実習経験のある学生も含むグループや、現職者および現職経験者を含むグループを対象に試用することができた。

タスクは、言語的分析、内容分析、状況解釈、背景解釈と記述、状況報告、専門家としての観点からの分析等を含む。具体的な言語や行動を分析することを通して、行動の評価に関与する諸要素とその相互作用を観察することを第一の課題とした。これと並行して、自分の観察を他者と共有し、違いに着目しその背景を分析し議論する課題を含めた。さらに、学習者が持っていると思われる背景とは大きく異なる背景（異文化）の影響を観察する機会を積極的に提供し、自文化に関する認識の明確化を促進することを目指した。

効果の評価は、学習状況の観察、学習者のタスクにおけるパフォーマンスの分析、学習者へのアンケートやインタビューを含む調査を総合して行った。

４．研究成果

患者・患者家族・看護師・医師など他業種とのコミュニケーションについて、看護や介護の場面が描かれたストーリーマンガ作品を刺激として観察・分析を行う教材 2 種 4 点（『大衆文化作品で学ぶ看護コミュニケーション　タスク集』および『大衆文化作品で学ぶ看護コミュニケーション　素材集』(2013)、『よりよい日常を作る看護』および『よりよい日常を作る看護　タスク集』）を開発し、学部学生や現職者に対して試用した。

その結果、同学年の学生（ピア）からなるグループに対する試用では、想定した以上に活発な議論を誘発することができ、本教材の利用可能性が証明されたと考えられた。言語から受け取っているはずの無意識の印象を言語化する作業は、自己の発話について内省する行動を活発化させると考えられた。さらに、実習経験者や現職者等の経験の質量の異なる者が加わったグループの場合は、議論が一層活発化かつ複合化することが観察された。現職者など、すでに現実の経験を持っている人々であっても、素材やタスクのレベルについて単純すぎるといった否定的な見方は取らず、十分な挑戦的課題を見出していた。素材によって彼ら自身の経験が想起され語られた場合には、グループ参加者にとって興味深い情報を提供しただけでなく、当人にとっても経験を深化させ意味づけるプロセスを前進させる効果があったと思われた。こうした、フィクションと実体験とを結び付けて語る経験そのものが、経験の幅も内省する機会も十分でなかった者にとっては、貴重な体験を提供した。

上述の現職者の反応から示唆を受けて、現職者からその経験や語りを収集することが必要な研究を行っている者に、教材の一部を刺激として用いるべく提供したが、刺激として有効に機能した。このことから、現職者研修や現職者対象の調査のために利用できる可能性があることが明らかになった。

上述の教材開発を進める上で、ジェンダーに関連する事象と異文化を背景とするポライトネスの在り方とが看護コミュニケーションの重要要素と考えられることが示唆されたため、これに対応する教材二種3点を並行して開発した。『国際医療人のコミュニケーション：ジェンダーの観点から世界』（2012）と『実践日本語ポライトネス指導教材』および『解答と指導用解説』である。これらには、大衆文化作品ではなく学術報告（日本語および英語）や日常会話資料などを用いた。これらを、大衆文化作品に基づく上述の教材と補完的に用いることによって、特定の問題についての発展的追及する場合の可能的方法を具体的に示唆することができた。これは、看護コミュニケーション技能の研鑽が、日々の対人的接触を円滑に行うための実用技能に留まらず、専門家として求められる学術的分析や学術的発信に地続きのものであることを示すための一助となったと思われる。

教材開発と並行して、その途上で得られたコミュニケーションおよび訓練方法に関する知見を、学会発表・学会講演・雑誌論文として公表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

① 因京子　「映画・ドラマを通してみるジェンダーバイアス」『日本語とジェンダー』13号、15－21、2013、査読有.

② 山路奈保子・因京子「日本人大学生の書き言葉習得―初年次と３年次における調査結果の比較から」『専門日本語教育研究』15号、47－52、2013、査読有.

③ 因京子「母語話者が知っていて学習者が知らないことは何か―学習者と母語話者のマンガ発話の解釈から」山崎和夫・松村瑞子（編）『言語と文化の対話』、187－204、2012、査読有.

④ 松村瑞子「効率的な日本語ポライトネス指導法―勧誘・依頼および断りの方略を中心に」山崎和夫・松村瑞子（編）『言語と文化の対話』、205－222、2012、査読有.

⑤ 因京子「現職者への専門的実務文作成支援―留学生教育の知見に基づく看護師支援の試み―」仁科喜久子（監修）『日本語支援の構築―言語分析・コーパス・システム開発』、91－104、2012、査読有.

⑥ 李ギギ・松村瑞子「談話標識としての『だから』に対応する中国語表現」『言語科学』47巻、53－60、九州大学言語文化研究院刊、2012、査読有.

〔学会発表〕（計10件）

① 因京子「漫画で学ぶ日本人の敬語の使い方」、国立台中科技大学日本語教育研究会、台中科技大学（台湾）、2013年11月30日．招待講演.

② Matsumura, Y. & K. Chinami, Teaching Politeness by Focusing on Difference in Recognition between Japanese and Learners, Conference on Teaching and Learning (Im) politeness, SOS at University of London. July 7th, 2013.

③ 因京子「日本語の社会文化技能の教育方法」第14回東アジア日本語日本文化FORUM、上海外国語大学（中国）、2013年3月16日．招待講演.

④ 因京子「ストーリーマンガを用いたベッドサイドコミュニケーション技能訓練：日本語教育の知見を応用して」第14回東アジア日本語日本文化FORUM、上海外国語大学（中国）、2013年3月16日.

⑤ 松村瑞子「発話行為におけるポライトネスの指導法―謝罪行為を中心に」第14回東アジア日本語日本文化FORUM、上海外国語大学（中国）、2013年3月16日.

⑥ 因京子「母語話者と非母語話者の発話解釈の差異：認識と推論」、第13回東アジア日本語日本文化 FORUM、仁川市立大学（韓国）、2012年2月10日.

〔図書〕（計８件）

① 因京子・力武由美・山路奈保子・松村瑞子・大倉美鶴・小川里美・森山ますみ『よりよい日常を作る看護』1－127、日本赤十字九州国際看護大学刊、2014.

② 因京子・力武由美・山路奈保子・松村瑞子・大倉美鶴・小川里美・森山ますみ『よりよい日常を作る看護　タスク集』1－127、日本赤十字九州国際看護大学刊、2014.

③ 松村瑞子・因京子『実践日本語ポライトネス指導教材』1－296、九州大学言語文化研究院刊、2014.

④ 松村瑞子・因京子『実践日本語ポライトネス指導教材　解答・指導用解説』1－302、九州大学言語文化研究院刊、2014.

⑤ 因京子・松村瑞子・山路奈保子「大衆文化作品で学ぶ看護コミュニケーションタスク集」1－52、日本赤十字九州国際看護大学刊、2013.

⑥ 因京子・松村瑞子・山路奈保子「大衆文化作品で学ぶ看護コミュニケーション資料集」1－86、日本赤十字九州国際看護大学刊、2013.

⑦ 因京子・力武由美・山路奈保子『国際医療人のコミュニケーション：ジェンダーの観点から世界』1－100、日本赤十字九

州国際看護大学刊、2012.

６．研究組織

研究代表者

因　京子（CHINAMI,　Kyoko）
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・
教授
研究者番号：60217239

研究分担者

松村　瑞子（MATSUMURA, Yoshiko）
九州大学・言語文化研究院・教授
研究者番号： 80156463

山路　奈保子（YAMAJI, Naoko）
室蘭工業大学・工学研究院・准教授
研究者番号：40588703

石橋　通江（ISHIBASHI, Yukie）
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・
教授
研究者番号：30369087

上村　朋子（UEMURA, Tomoko）
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・
准教授
研究者番号：30352347

松尾　和枝（MATSUO, Kazue）
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・
准教授
研究者番号：90389502

以上。